

京都市香港情報拠点レポート(2018年6月・7月分)

1 統計

○訪日旅行者数(香港)

・2018年6月 205,500人(2017年6月 201,799人)(対前年比 +1.8%)

・2018年7月 226,800人(2017年7月 234,651人)(対前年比 -3.3%)

※出典「日本政府観光局(JNTO)」

○京都市内39ホテル対象宿泊実人数(香港)

・2018年6月 3,726人(2017年6月 4,711人)(対前年比-23.9%)

・2018年7月 3,923人(2017年7月 4,704人)(対前年比-19.4%)

※出典 京都市観光協会・京都文化交流コンベンションビューロー「外国人客宿泊状況調査」 ※対前年比は総営業部屋数の差異を補正反映

2 市場動向

<香港人が一度行きたい旅行先、大自然が首位>

英系旅行サイト大手の「スカイキャナー」がこのほど実施した調査によると、一生に一度は必ず行きたい旅行先として最も多くの香港人が選んだのは、神秘的な大自然が見られるところだった。先月実施したオンライン調査で、香港人400人から回答を得た。「神秘的な大自然」は28%の回答者が選択し、フィンランドのオーロラ鑑賞やボリビアのウユニ塩湖などに人気が集まった。次に多かったのは「極上リゾート」の23%で、モルディブのビーチリゾートやアイスランドの温泉施設ブルーラグーンの名が挙げられた。一方、「都会の観光名所」は人気がなく、ラスベガスのカジノやオーストラリア・シドニーのオペラハウスは6%。エジプトのピラミッド、中国の万里の長城、パリのエッフェル塔などの「歴史の旅」も13%にとどまった。一生に一度は行きたい旅行について、61%が5年以内に実行しようと考えており、定年退職後に行くとの回答は3%だった。

【7月16日 香港経済日報】

<特徴あるツアーが人気 夏季旅行1割増の見方>

夏季の旅行シーズンが間もなく本格化する中、香港の旅行各社が売り込みを強化している。今年の特徴のある高価格帯のツアーを投入しているところが多く、販売自体も伸びている。競争が激化するオンライン・トラベル・エージェンツ(OTA)などとの差別化を図る。好調な経済を背景に、今夏のツアー申し込みは前年同期に比べ1割増えるとの見方もある。

日本ツアーを主力とする香港の大手旅行会社、「東瀛遊旅行社(EGL ツアーズ)」は今夏、アフリカ・ケニアの野生動物を観察する9日間のツアーを売り出した。同様のツアーを組むのは同社初。民間の野生動物保護区2カ所に泊まり、ヘリコプターで保護区上空も訪れる。料金は1人当たり17万3,888HKドル(約245万円)と高額だが、募集を始めて2週間で枠が埋まったという。2人から催行可能なケニアの動物観察ツアー(8日間)も1人当たり4万2,999HKドルから募集を始めた。

業界の有名人と一緒に旅行するツアーの組成も特徴の一つ。「EGL ツアーズ」は日本に精通するステューブ・ヒュン執行取締役が全行程を共にする日本行きツアーも発売した。豪華寝台列車で国内各地を回るという内容で、ツアー料金は9万6,888HKドルからとなる。同業大手の「縦横遊(パッケージツアーズ)」は、香港の著名な旅行ライターである項明生(ジェームス・ホン)氏と行く日本クルーズツアーを発売。クルーズ船に乗って日本に着いた後は、青森県のねぶた祭を楽しむ。ツアー料金は3万9,999HKドルで、現時点では出発まで1カ月余りを残して6割の枠が埋まったという。

その他特徴のあるツアーとしては、康泰旅行社によるグリーンランド・アイスランドの周遊ツアー(1人当たり4万2,999HKドル)やタイ・バンコク近郊の景勝地を巡るツアー(3,499HKドル)、「新華旅遊」が催行するロシア8日間ツアー(8,998HKドル)などが挙げられている。夏季ツアーでは家族連れを狙った商品が多いようだ。EGL ツアーズのステューブ執行取締役によると、夏季ツアーの顧客のうち、ファミリー層は旅

行社売り上げの8割を占める。同社でもファミリー層を意識した特徴のある商品を打ち出したことが功を奏して、夏季ツアー商品全体の枠6割が現時点までに埋まった。夏季シーズンの売り上げは前年同期から2～3%の上積みを目指す。

「縦横遊」の袁振寧執行役員は、日本をはじめ、韓国や台湾、東南アジアを巡るツアーが今夏の人気だと説明。北海道7日間のツアーは1人当たり1万 2,000HK ドルするが、7月催行分は全て売り切れた。「新華旅遊」の蘇子揚社長も日本の人気が最も高いとした上で、中でも今夏は九州や四国を巡る旅行者が増えるとの予測を示した。永安旅遊によると、今夏はタイ行きツアーの引き合いも高まっている。タイ各地のリゾート地を訪れるそれぞれのツアーは7月上旬まで予約がほぼ埋まっている状態だ。今夏のツアー料金はインフレ分などを加味した結果、全体平均で3～4%値上がりした。中でも日本行きは航空座席の需給が逼迫していることもあって、10%上昇したという。香港の観光業界団体、「香港旅遊業議会(TIC)」の陳張樂怡(アリス・チャン) 総幹事(事務局長)は、業界全体の夏季ツアーの申し込み人数が前年同期に比べ 10%増えるとの予測。香港経済の上向きと小売業界の回復が好材料となるほか、さまざまな層に対応する旅行各社の多種多様な商品が市民の旅行意欲を刺激することを理由に挙げた。

【6月29日 香港経済日報】

<遊学ツアー予約好調 参加者の低年齢化も>

香港の旅行各社では夏休みを控え、旅行と語学研修を兼ねた遊学ツアーの予約が好調だ。日本ツアーを主力とする地場旅行大手、「東瀛遊旅行社(EGL ツアーズ)」では今年、欧州などに向かう遊学ツアーの予約人数が前年同期比で3割増加。親の意向で参加者の低年齢化も進んでいる。「EGL ツアーズ」が取り扱う遊学ツアーの予約人数は、英国やオーストラリア、ドイツなどが3割、日本や韓国など近場が1割それぞれ増加。世界各地で語学学校を運営する「イー・エフ・エデュケーション・ファースト(EF)」では英国に向かう遊学ツアーの予約人数が前年同期の2倍となり、追加でスケジュールを組むなど対応に追われている。将来の留学に備え、早くから現地に慣れさせたい親が増えているようだ。さらに、子どもの視野を広げようとする親の意向で、遊学ツアーに参加する子どもの低年齢化も進んでいる。「EF」では近年、7～10歳の参加者が増加しているという。

【6月4日 香港経済日報】

■観光市場トピックス

【インバウンド関係】

<6月の訪日香港人2%増 今年初の20万人>

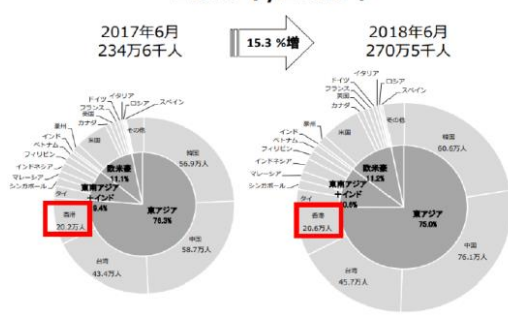
日本政府観光局(JNTO)が18日発表した6月の訪日香港人は、前年同月比1.8増の20万5,500人(推計値、以下同じ)だった。6月としては過去最高で、今年初めて20万人の大台に乗った。プラスは2カ月連続。訪日人数ベースでは、中国、韓国、台湾に次いで4番目に多かった。航空座席の供給量が増えたことに加え、昨年5月にあった端午節連休が今年は6月にずれたことも旅行需要を押し上げた。ただ大阪北部の地震の影響を受けて6月下旬は訪日需要が抑えられ、伸び幅の鈍化につながった。1～6月の合計は前年同期比2.5%増の111万600人となった。6月の全体の訪日外国人は15.3%増の270万4,500人で、同月として過去最高を記録。1～6月では15.6%増の1,589万8,900人だった。

【7月19日 NNA】

2018年6月 訪日外客数 (JNTO推計値)
Visitor Arrivals for Jun. 2018 (Preliminary figures by JNTO)

国・地域	Country/Area	総数 Total		増減率 (%)	総数 Total		増減率 (%)
		2017年6月	2018年6月		2017年1月～6月	2018年1月～6月	
総数	Grand Total	2,348,442	2,704,500	15.3	13,757,222	15,898,900	15.6
韓国	South Korea	568,877	606,100	6.5	3,396,178	4,016,400	18.3
中国	China	587,193	760,900	29.6	3,281,651	4,056,400	23.6
台湾	Taiwan	433,603	458,900	5.4	2,385,033	2,605,400	9.6
香港	Hong Kong	201,799	205,500	1.8	1,083,371	1,110,600	2.5
シンガポール	Singapore	10,900	10,900	0.0	69,999	69,999	0.0
シンガポール	Singapore	36,283	40,000	10.2	177,834	199,900	12.4
マレーシア	Malaysia	30,044	36,500	21.5	214,139	238,200	10.3
インドネシア	Indonesia	38,314	56,100	46.4	184,888	214,100	15.8
フィリピン	Philippines	31,450	37,300	18.6	224,507	275,500	22.7
ベトナム	Vietnam	21,869	29,500	34.9	157,130	194,300	23.7
インド	India	10,650	12,500	17.4	69,536	80,600	15.9
豪州	Australia	32,506	35,800	10.1	282,510	295,400	12.3
米国	U.S.A.	137,885	161,700	17.2	696,436	774,100	11.2
カナダ	Canada	20,246	23,900	18.0	152,949	165,700	8.3
英国	United Kingdom	19,501	22,500	15.4	153,764	169,200	10.0
フランス	France	16,071	19,400	20.7	130,264	149,200	14.5
ドイツ	Germany	12,799	14,400	12.5	86,039	106,100	8.2
イタリア	Italy	6,324	11,000	32.1	56,222	66,500	18.3
ロシア	Russia	5,550	7,000	26.1	35,720	46,400	29.9
スペイン	Spain	6,491	8,300	27.9	38,892	46,700	20.1
その他	Others	75,132	85,600	13.9	524,271	583,200	11.2

訪日外客数のシェアの比較 2017年/2018年



<5月の訪日香港人5%増 連休取得しやすく>

日本政府観光局(JNTO)が20日発表した5月の訪日香港人は、前年同月比4.9%増の19万500人(推

計値、以下同じ)だった。前月の2桁減からプラスに戻した。5月としては過去最高となった。同月は下旬に仏誕節の公休日があり、連休を取得しやすい日並びだったことで、旅行需要が高まった。訪日人数ベースでは、中国、韓国、台湾に次いで4番目に多かった。1～5月の合計は前年同期比 2.7%増の 90 万 5,100 人となった。

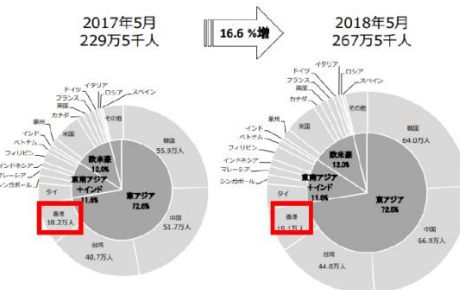
【6月21日 NNA】

2018年5月 訪日外客数 (JNTO推計値)

Visitor Arrivals for May 2018 (Preliminary figures by JNTO)

国・地域	Country/Area	総数 Total			総数 Total		
		2017年5月	2018年5月	増減率(%)	2017年1月～5月	2018年1月～5月	増減率(%)
総数	Grand Total	2,294,717	2,675,000	16.6	11,410,790	13,194,400	15.6
韓国	South Korea	556,892	640,400	14.6	2,827,028	3,410,200	20.8
中国	China	517,038	668,600	29.3	2,694,458	3,295,600	22.3
台湾	Taiwan	497,471	449,100	-9.8	1,854,419	2,048,800	10.9
香港	Hong Kong	181,601	190,500	4.9	881,572	905,100	2.7
タイ	Thailand	88,816	103,800	16.6	479,151	533,000	11.2
シンガポール	Singapore	34,322	39,400	14.8	141,551	159,800	12.9
マレーシア	Malaysia	36,019	36,400	1.1	184,095	199,700	8.5
インドネシア	Indonesia	24,908	31,500	26.5	146,574	158,000	7.8
フィリピン	Philippines	43,994	59,000	34.1	193,057	238,200	23.4
ベトナム	Vietnam	22,118	29,200	27.5	135,261	164,800	21.8
インド	India	15,584	17,300	11.0	58,886	66,000	15.5
オーストラリア	Australia	32,400	39,600	23.8	230,004	259,600	12.9
米国	U.S.A.	124,672	140,500	12.7	558,454	612,400	9.7
カナダ	Canada	27,622	31,400	13.7	132,703	141,900	6.9
英国	United Kingdom	25,861	30,300	17.2	134,263	146,700	9.3
フランス	France	24,951	29,600	18.6	114,193	129,800	13.7
ドイツ	Germany	17,370	20,400	17.4	85,240	91,700	7.6
イタリア	Italy	9,827	12,200	24.1	47,898	55,600	16.1
ロシア	Russia	5,883	7,500	27.5	30,170	39,400	30.6
スペイン	Spain	7,732	9,300	20.3	32,401	38,400	18.5
その他	Others	87,896	99,200	12.7	449,412	497,700	10.7

訪日外客数のシェアの比較
2017年/2018年



＜香港親子旅の需要取り込みへ セントレア＞

中部国際空港(セントレア)が香港からの親子旅行需要を取り込む。2017年の訪日香港人のうち、中部国際空港の利用者は全体の6%にとどまるが、同空港が持つ強みを生かし親子の旅行者を取り込むことで、今後は2倍となる12%までシェアを広げる目標だ。

中部国際空港の営業推進本部で、香港市場を担当する榎原真未氏は、「香港市場ではここ最近、20～30代の若者が自ら旅行を計画し、親を連れて行くことがブームになっている。中部地方には親の世代が好きな温泉や自然が多くあり、市場にマッチするのではないか」とコメント。香港から日本への玄関口として、利用者を増やしていきたいと抱負を語った。

中部国際空港は、良好な親子関係の構築を促す香港の社会的企業、「上有高堂」とタイアップし、香港の親子旅行に関する調査を実施。13日に開かれたメディア向け発表会では、調査結果と合わせて空港施設を紹介したほか、中部地方を親子で回る旅行計画を募るコンテストの実施について説明した。同空港は鉄道駅を降りてから飛行機搭乗まで一つも段差がないなど、ユニバーサルデザインを採用している。榎原氏は、施設自体もコンパクトなため、効率を求める香港人には向いていると勧めた。空港内には温泉があり、親世代が温泉を利用している間、子世代の若者は「日本でセントレアだけ」というセグウェイに乗る空港体験ツアーなどを楽しめるという。空港に早く到着したい傾向の強い親世代が楽しめる商業施設も充実する。

中部国際空港の17年度(17年4月～18年3月)の航空旅客数(速報値)は前年比5.3%増の1,153万9,551人で、このうち国際線を利用した外国人旅客は12.7%増の266万4,054人だった。榎原氏によると、香港人の利用客は年間約10万人を超える。開港13年を迎え、この夏以降に米ボーイングの機材をメインにした複合商業施設が開業するほか、19年上半期(1～6月)には新ターミナルビルが供用を開始する予定だ。

「上有高堂」が行った親子旅行に関する調査では、日本へ両親を連れて行ったことがあるとの回答者(複数回答)が最も多く、104回に上った。2位の台湾(45回)、3位の中国本土(38回)を大きく上回った。背景には香港人が親子旅行をする際に、行き先として「食事と環境の衛生」、「治安」を非常に重視していることがあるという。約6割は向こう1年以内に親子一緒に旅行することを考えている。親子旅行での1人当たり平均の消費額(航空券、宿泊費を含む)は約7,300HKドル(約10万3,000円)だった。調査は今年5月、親子で海外旅行をしたことがある20歳以上の117人を対象に実施した。

【6月14日 NNA】

【旅行消費全般】

＜香港人による日本の住宅購入減 民泊新法で＞

日本で住宅宿泊事業法(民泊新法)が先月15日に施行され、その規制の厳しさに、香港人による日本の住宅購入が減少しているようだ。香港で日本の不動産の販売を専門に手掛ける「卓傑日本不動産(トラスティー・ジャパン・リアルティ)」の支店マネージャー、マイケル・チョン氏は、「基本的に、今は日本で民泊経営のための住宅購入を検討しないようにと顧客に伝えている。長期賃貸向けの購入が最もいい

選択肢だ」と述べた。

同業の「東日本物業顧問(TYプロパティ)」は、利回りの高さから、日本の不動産に対する香港人の長期的な関心は変わっていないと指摘。規制の詳細が発表される前の4月に取引件数は 20%減少したものの、5月には 15%回復したという。同社の幹部は、「長期的な賃貸契約向けの住宅を探して来店する買い手が増えている」と述べた。

不動産仲介業者によると、日本で住宅を購入し民泊に利用すると 10%の高利回りが得られるとして、近年は香港人投資家の関心を集めていた。香港政府差餉物業估價署によると、香港の賃貸住宅の利回りは4月に 2.6%だった。

【7月4日 サウスチャイナ・モーニングポスト】

<香港人の6割 旅行商品に年間5万ドル>

航空券やホテルなど旅行ツールの検索エンジン、「カヤック(KAYAK)」がこのほど発表した調査で、香港人旅行者の約6割が旅行商品に年平均5万 HK ドル(約 70 万円)を費やしていることが分かった。調査は昨年 10 月、香港を含むアジア太平洋地域7市場で、調査日までの半年間にオンラインでホテルまたは航空券を予約した 21~45 歳の旅行者 2,100 人を対象に実施した。調査対象の支出には、航空券、ホテル、旅行先での移動費、その他の旅行商品が含まれる。

調査によると、香港人旅行者の5人に1人が旅行商品に 10 万 HK ドルを出費。5,000HK ドル以下はわずか2%だった。「KAYAK」のアジア太平洋地区担当副社長、韋小薇(エイミー・ウェイ)氏は、「香港からの平均的な往復航空券(エコノミークラス)、さまざまな価格帯のホテル料金に基づくと、旅行商品に年間5万 HK ドルを費やすには非常に多くの選択肢がある」と指摘。台北なら旅行 11 回で毎回3つ星ホテルに5泊、バンコクなら旅行6回で毎回5つ星ホテルに5泊、ニューヨークなら旅行1回で5つ星ホテルに9泊できると述べた。

【6月 12 日 スタンダード】

【自治体・商業施設関連】

<4県食品の輸入規制 24 日に緩和 香港当局>

香港政府食品・衛生局は 20 日、東京電力福島第1原発事故の発生直後から続けている福島、茨城、栃木、群馬、千葉5県の一部食品の輸入停止措置について、条件付きで福島を除く4県産の輸入規制を今月 24 日正午から緩和すると発表した。輸入を認めるのは、同4県産の野菜、果物、牛乳および乳飲料、粉乳。これらを輸入するには、日本の農林水産省が出した輸出業者の証明書と、産地の記載とともに、食品中の放射性物質が(国際的な食品安全基準を定める)国際食品規格委員会(コーデックス委員会)の基準を超えないことを示す農水省の証明書の提出などが必要となる。

同局は、「香港政府は食品の安全を確保するため、2011 年3月 24 日から 49 万を超える日本産食品のサンプル検査を実施してきたが、国際食品規格委員会の基準を超えるものは一つもなかった」と説明。「海外の専門機関は既に放射性物質の観点から日本産食品の安全性を確認しているほか、多くの国・地域が日本産食品の輸入に当たって、全てもしくは一部の規制解除を進めている」と指摘した。

【7月23日 NNA】

<童話・漫画軸に日本観光 PR ブックフェア開幕 自治体が出展>

香港最大の書籍・文具の見本市「第 29 回香港ブックフェア(香港書展)」が 18 日、香港島・湾仔で開幕した。多くの香港人が来場する機会を生きし、日本の自治体などが訪日観光をアピールした。

ムーミンをテーマにした「ムーミンバレーパーク」を前面に打ち出して PR したのは埼玉県。同県飯能市で来年3月にオープンする予定で、ムーミン一家が暮らす屋敷や物語に登場する灯台などを設けるほか、物語を追体験できる複数のアトラクションなどを計画。埼玉県によると、作者の故郷フィンランド以外で初めてのムーミンを題材としたテーマパークとなる。

埼玉県はテーマパークの運営会社と協力して観光振興に取り組むことを目的に6月に協定を締結。この日のブックフェアのブースには、ムーミンバレーパークのオープン告知を掲出してアピールした。同県観光課は「新しいもの、珍しいものが好きな香港人に訪れてもらうのにぴったりな施設。近くにある観光名所とセットで香港人に足を運んでもらいたい」と期待を込めた。香港の旅行会社にも売り込む予定だ。

4度目の出展となる兵庫県は、同県宝塚市で約 20 年間過ごした故手塚治虫氏の作品や足跡を紹介する手塚治虫記念館(同市)を紹介した。今年は手塚氏の生誕 90 周年に当たり、同記念館では展示品を

更新するなどのリニューアルが計画されており、県はこうした情報も来場者に PR。神戸市出身の漫画家、横山光輝氏の作品「三国志」や「鉄人 28 号」に登場するキャラクターのモニュメントなどを見学できる散策マップなども用意した。

兵庫県はこれらの漫画作品を足掛かりに、県南の神戸と姫路、県北の城崎を巡る広域観光ルートへ香港人観光客を呼び込みたい考え。兵庫県国際経済課の中安祐介主査は「神戸の夜景や世界遺産の姫路城は、香港人の人気の観光地として定着している。温泉地の城崎など県北部にも足を延ばし、県全体を周遊してもらえるような観光をアピールしていきたい」と意気込みを語った。

四国地方4県や四国ツーリズム創造機構などは、「四国」として初めて出展した。ブースでは南米ボリビアの「ウユニ塩湖」のような写真が撮れると話題になっている香川県三豊市の父母ヶ浜のポスターを掲示。1日に観光客が数百人訪れ、既に香港人や台湾人からも人気を集めているという。徳島県の大歩危峽や愛媛県の道後温泉、高知県の柏島なども取り上げた。

JR四国が外国人旅行者向けに販売している四国内の鉄道乗り放題切符は5日用、7日用の販売が好調という。四国ツーリズム創造機構事業推進本部の三木康裕シニアマネジャーは「外国人旅行者は数日かけて四国全域を巡っているとみられ、四国一体で観光地と食の魅力を伝えたい」と意気込んだ。

和歌山県も出展。同県を訪れる香港人旅行者の間では、レンタカーでドライブしながら観光地を巡るドライブツアーの人气が高まりつつある。熊野古道を平安衣装で歩く体験や果物狩りなど、鉄道などでは訪問できない自然の中での非日常体験を提案し、県内各地への幅広い呼び込みに力を入れている。

【7月19日 NNA】

＜観光見本市が開幕 日本私鉄8社が出展＞

香港の国際観光見本市「第32回香港国際旅行展示会(ITE 2018)」が14日、湾仔の香港コンベンション&エキシビションセンター(HKCEC)で開幕した。日本のエリアでは自治体や旅行会社のほか、私鉄8社が出展し、鉄道と、グループが持つ沿線の施設を組み合わせたPRを行った。阪急阪神ホールディングスは、阪急電鉄と阪神電車の2路線と、沿線でグループ会社が展開するホテルや百貨店、観光名所を組み合わせ、旅行の目的地の一つとして紹介した。同社の担当者は、「路線はそれほど長くないが、エリアの密度は濃い」とコメント。「こうした(鉄道と沿線を紹介する)アピールはインバウンド呼び込みとの親和性が高い」との見方を示した。小田急電鉄は、箱根-新宿間を結ぶ鉄道乗車券と、箱根の宿泊をセットにしたパッケージ商品を持参。同社は現地の宿泊施設と強いコネクションがあるのが強みだ。ただ、訪日香港人は「既に箱根を訪れたことがあるという旅行者も多い」(同社関係者)ため、鎌倉・江ノ島の路線PRを加えたほか、小田急沿線にある大山、豪徳寺、「藤子・F・不二雄ミュージアム」なども写真パネルで大きく紹介した。

香港の訪日旅行者はリピーターが多く、ここ最近では地方やまだ広く知られていないような観光地を訪問するケースが増えている。その中で、京成電鉄は「長らく東京を訪れていない人も多いのではないかとみて、首都圏を巡る新しい提案を行った。同社はこれまで、成田空港から都心まで出るのに便利な列車「スカイライナー」をメインに売り込んできたが、現在はグループ全体でのPRを始めている。グループが東京都、千葉県、茨城県に持つ施設の中では特に、関東では最大級という「京成バラ園」や、成田空港に近く、免税店も入るショッピングセンターを来場者に勧めた。

同社を含め、関東全域の私鉄12社、路線バス52社の交通機関が乗り放題となるパス「Greater Tokyo Pass」も紹介。同パスは今年4月に発売したばかりで、3日間有効の大人乗車券が7,200円となる。同社鉄道本部の式田将規氏は、日本での観光で難しいのは交通面とした上で、「このパスはそういった課題を解消する。広域の移動では日光や秩父、鎌倉まで行ける。マニアックなエリアを好むリピーターは、私鉄やバスの移動でより日本のローカルな暮らしを体験できる」と説明。「地方を遊び疲れた旅行者」に対して、改めて東京の魅力を発信できるツールとして期待感を示した。

【6月15日 NNA】

■その他ピックス

【日本⇄香港航空路線就航情報等】

【香港→日本定期便数(2018年7月25日～31日)】

出発空港	便数	就航航空会社
新千歳（札幌）	週19便	キャセイパシフィック航空、香港航空
関西（大阪）	週135便	ピーチ、キャセイパシフィック航空、香港エクスプレス、エア・インディア、全日空、ジェットスター・ジャパン、香港航空
成田（東京）	週121便	キャセイパシフィック航空、バニラエア、ジェットスター・ジャパン、香港エクスプレス、全日空、日本航空、香港航空
羽田（東京）	週56便	香港エクスプレス、全日空、キャセイパシフィック航空、日本航空、キャセイドラゴン航空
中部（名古屋）	週37便	香港エクスプレス、キャセイパシフィック航空、全日空
広島	週3便	香港エクスプレス
岡山	週2便	香港航空
米子	週2便	香港航空
高松	週4便	香港エクスプレス
福岡	週32便	香港エクスプレス、キャセイドラゴン航空
熊本	週2便	香港エクスプレス
宮崎	週2便	香港航空
鹿児島	週10便	香港航空、香港エクスプレス
那覇	週27便	香港航空、キャセイドラゴン航空
石垣	週6便	香港エクスプレス